

## [09\_01]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6768427>

---

出版情報：情報処理教育広報. 9 (1), 1986-06. Educational Center For Information Processing,  
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



## 私の2年3ヵ月

今村 容子 \*

情報処理教育センターを5月31日で退職することになりました。昭和59年3月にアルバイトとして入り、昭和60年4月1日に非常勤職員として採用され今日に至ってます。退職することをお知らせ出来る場をいただきましたので、この間のことを思い出しながら書いてみたいと思います。

「えっ！違ったんですか？」・・・この2年3ヵ月のうちに何度肝を冷やし、情報処理教育センターの皆さんを驚かせたことでしょうか。見るもの聞くもの珍しいことばかりでした。計算機のことを全く知らずにやって来たため皆さんが予想だにしない失敗を数多くしてきました。

私が入って来た頃は皆さんが大忙しの時でワープロ1つをお伴に、一人大学院生と同じ部屋に入られました。院生は卒業前で学校にはほとんど現われないし、部屋が一番隅のうえ皆さん忙しくてほとんど来られないし、隣の部屋の前で消えてしまう足音を聞きながら「私はここにいていいのかしら」と思いつつ一人ぼつんとワープロの練習をしていました。

1ヵ月ほどたつと引き継ぎのため、ほとんど梅田（旧姓赤司）さんの後ろをついて回っていました。最初はJEF（日本語処理）の練習です。ワープロをカナ入力で覚えたためローマ字入力に慣れるのが一苦勞でした。その頃、何か少しでも間違えると計算機が壊れると信じていた私は「じゃあ、打ってみて」といわれて自信がないときなど、梅田さんの顔をちらりと見て触れてはいけないものに触れるようにひとさし指ひとつをそっと出し、キーを押してパッと指を離し、また梅田さんの顔を見ていました。

次に「利用の手引き」をテキストにしてTSSの勉強をしました。最初は梅田さんに詳しく説明をしていただきながら読み、そのあと自分で「利用の手引き」通りに打ち込んでいきました。RUNと

---

\* 情報処理教育センター

してちゃんと「利用の手引き」通りに動きCODE=0000で終わった時は感動しました。このころ無限ループというものを覚え、計算機がこんでいて応答が遅くなっているも「無限ループに陥りました」とうれしそうに言って笑われていたのを覚えています。

引き継ぎを始めた頃から一番不安だったのが、システム検討会の議事録作成です。メモが全くとれないのです。聞く言葉一つ一つが初めてのもので、出席している方の会話はいつも宇宙語でなされていると思っていました。

この後1カ月ぐらいして、突然受付の方に仕事が変わるという話になりました。受付になってまず困ったのは電話でした。電話と人の顔を覚えるのが苦手の私が受付だなんて・・・と一人前に少しプレッシャーを感じたりもしました。その頃受付には電話が2つ、インターホンが4つありました。始めのうちは音色が違うのがわからず、鳴っているのと違うものをもって一生懸命「もしもし、もしもし」と話しかけていました。するとよく目の前のインターホンが鳴っていたりしたものです。また電話をかけてこられる方は、私が何も知らないことを御存知のはずもなく、色々聞かれるので電話にできることが一つの恐怖になっており、受話器をとる瞬間からいつも情報処理教育センターの人を目で探すぐせがついていました。

少しずつ仕事を覚え、慣れてくると人が訪ねて来て下さる受付の仕事が楽しくなってきました。受付の廊下側の壁には小さな窓があり、通る方がよく「一人で大丈夫？」とか「元気にしてる？」とのぞいたり、手を振って下さるので、肩の力が抜け、そういう日はやる気ができました。

また受付はプログラム相談の窓口にもなっています。始めの頃は何を聞かれてもわからず人を呼びに行っていました。しばらくして、本当に簡単な質問にでしたがちゃんと答えられ、その学生さんがお礼を言って下さった時は「やったー！」と舞い上がってしまいました。そして当時書いていた週間作業報告書のその日のところに「プロ相」と書いてにっこり笑ったのを覚えています。

登録、プログラム相談、電話の対応、各種連絡等の受付の仕事の中で一番楽しかったのが広報です。構成等を何度もして飽き飽きしたりもしますが、出来上がって表紙を見ると1つ仕事が終わったことに満足します。受付の仕事はあれもこれもと短時間での処理が多く細切れの上平行して行わねばならず、一つ一つが終わっても何か大きな仕事一つをしたあのようなすっきりした感じがありません。常に続いているという気分です。その点広報は後で形にも自分の心にも終わった仕事として残るし、

仕事の内容自体も自分にあっていたようでした。

今年の4月から後任の方が来て、今引き継ぎをしています。ここに来た当時は引き継ぐ側を自分ができるなんてあまり考えられなかったことですが、何とかやっています。新しい方の姿を見ていると「2年とちょっと前は自分もこんなだったんだなあ」と不思議な気がします。新しい方は何事にも一生懸命で笑顔のとても愛らしい方です。1年ぐらい一人部屋だったので、2人で仕事をすることは活気があって楽しいことなのだと改めて実感しました。

そして5月から受付が事務室と一緒にになり、ただいま女性ばかり5人同じ部屋で仕事をしています。仕事の能率も上がったし、話す機会も増えました。部屋が広くて、明るくて、今ここは花盛りという感じです。機会がある方は一度お寄り下さい。とても心が休まる感じですよ。

2年3カ月の間、仕事の面だけでなく性格も随分と変わりました。おとなしかった私が元気ではつきりものを言うようになりました。随分とたくましくなったと思います。それに失敗をしても落ち込まないという強さ（ずうずしさ？）ができました。失敗をして一々落ち込んでいたら元気なときがないというぐらい失敗が多いせいもありますが、情報処理教育センターの方が優しいのでつい甘えてしまい「次がんばればいいや」と気持ちの切り替えができるのが何よりも大きかったようです。

仕事の方はあまりできたという自信がありませんが、話題と笑いの提供だけは人一倍していたという気がします。

この2年3カ月の間に実に多くのことを経験し学びました。そしてこのようなあまり役にもたない私をこの間見守って下さった利用者の皆様や富士通の皆様、そして情報処理教育センターの皆様から感謝いたしております。この2年3カ月はよい思い出があふれるほどつまっています。

情報処理教育センターも今年の10月から機種が変わりますし、仕事の能率が上がるように部屋がえ等も行われましたので、これからはより一層使い易くなると思います。ますます情報処理教育センターは、あらゆる面でよい方向に変わって行くことだろうと心から楽しみにしています。

皆様、本当に長い間色々ありがとうございました。